

《神隠し村 オープニング》

???

「——ああ、ヒトの子。ヒトの子。愛しい子」

「お前が欲しい、どうしても」

「隠して、攫って、連れてくぞ」

「一緒に行こう、神隠し——」

#主人公

「——……。」

「う、ううん……？」

#女医

「ああ、目を覚ましましたね」

#主人公

「あなたは……？　ここは……」

#

たしか、私は大学のサークルでキャンプに来たはずだ。

バーベキューや川遊びをして、少し散歩も兼ねて森林浴を楽しんでいたはず——。

#曜子

「私の名前は八雲曜子と申します。ここは——」

#

曜子さんは、不意に曇った表情を浮かべた。

#曜子

「……ここは『神隠し村』、と呼ばれています」

#主人公

「神隠し村……？」

#

聞いたことがない。そもそも、山の周辺にそういった集落の類はないはずだ。

何より、村の名前がなんだか不吉だった。

#曜子

「あなたは、文字通り『神隠し』されたのですよ」

#主人公

「……??？」

#

曜子さんの言うことがよく分からず、思わず首を傾げる。

#曜子

「にわかには信じられませんよね。しかし、この村には――」

#????

「よーこせんせえー！」

#

元気な声とともに、村の子供たちが診療所に駆け込んできた。

#曜子

「あら、こんにちは」

#

子供たちの顔を見て、私は思わずギョッとした。

子供たちの額には……角が生えている！

#子供たち

「よーこせんせえ、この人だあれ？」

#曜子

「私のお友達ですよ。この村に興味を持って、遊びに来てくれたんです」

#子供たち

「へえー！」

#

もちろん私は曜子さんとは初対面だが、彼女は機転を利かせてくれたらしい。

#子供たち

「おねーちゃん、お名前なんていうの？」

#主人公

「え、えっと……私は……」

名前入力画面

#子供たち

「(主人公) おねーちゃん、よろしくね！」

「お客さんなんて珍しいなあ！」

「いつまでここにいてくれるの？」

#主人公

「え、ええと……」

#曜子

「こらこら、(主人公) さんを困らせてはいけませんよ」

「私は(主人公) さんとお話があるので、君たちはまた今度ね」

#子供たち

「はあーい」

#

小鬼のような子供たちは、元気いっぱい診療所を走り去っていった……。

#曜子

「……この村には、ご覧いただいたとおり、人ならざるものが棲んでいます」

「私も、数年前に神隠しされて、ここに連れてこられました」

#主人公

「そんな……」

「ま、まさか、一度神隠しに遭ったらもうこの村から出られない……？」

#曜子

「いえ、そういうわけでもありません」

「あなたを神隠しした張本人を見つけ出して説得すれば、元いた場所に戻してもらえます」

#主人公

「張本人……」

#曜子

「あなたは、この村の誰かに攫われてきたのでしょうか」

「神隠しをするには、犯人にも準備が必要です。神隠しをした犯人じゃないと、神隠しは解除されない」

「その真犯人を特定しないと、あなたは帰れない」

#

……とんでもない夏休みになってしまった。

大学が始まるまでに、無事に帰れるだろうか……。

#主人公

「ところで、曜子さんも神隠しに遭ったんですよね？」

「曜子さんも犯人が見つからないんですか？」

#曜子

「いいえ？」

「私の場合は、この村が気に入ってしまったのでそのまま住み着いてしまったのです」

「医者としての腕も活かしますし、案外住み心地悪くないですよ？」

#主人公

「そ、そうですか……」

#

というわけで、私の神隠し村脱出ゲームが始まったのであった……！